

素晴らしかった九日間

下吉田中学校

佐藤 遼太郎

今回の姉妹都市派遣事業は、私にとって本当に楽しく、学びの多い、とても充実した一生忘れられないものになりました。

出発前は、初めての海外という不安や緊張を強く感じていました。しかし、デンバーの空港に降り立ち、アメリカの空気を感じたとき、楽しみという気持ちが勝り、この九日間を全力で頑張ろうと決意を新たにすることができました。

最も心に残っているのはホームステイです。待ち合わせ場所に着き、バスを降りると、すぐにホストファミリーの方々が駆け寄ってきてくれました。そして、とても温かく僕たちを迎え入れてくれました。初日は、家の周りを案内していただきながら散策し、近所の方にあいさつをし、コロラドのダウンタウンの街並を感じることもできました。そして、夕飯を近くのピザ屋で食べたのですが、出てきたピザとドリンクの大きさ、味の濃さには本当に驚きました。

翌日からは、動物園、ゴルフ場、ボーリング、サッカー観戦と色々な場所に連れて行ってくださり、とても貴重な体験をすることができました。目にするもの全てが新鮮で楽しかったのですが、中でもパイクスピークの山頂まで車で登ったときには、道がとても狭く、ガードレールもなく、ヒヤヒヤしたことを覚えています。しかし、山頂では雲がかかり、何も見えなかったのが残念でした。

ホストファミリーと過ごす最後の日、姉妹都市派遣 30 周年記念パーティーがありました。この日のために、事前研修会において、合唱とソーランの練習を重ねてきました。本番はとても緊張しましたが、大成功といえる発表ができたと思います。パーティーの後、ホストファミリーが「素晴らしい発表をありがとう」と言ってくれたことが、本当に嬉しかったです。

別れのとき、「やっと仲良くなって、たくさん話せるようになったのに」と、寂しい思いがこみ上げてきました。しかし、ホストファミリーが「また富士吉田に遊びに行く」と言ってくれたので、その言葉を心に留め、次に会ったときには、もっと英語でコミュニケーションが取れるように努力していきたいと思います。

今回、私は、自分の英語力がどのくらい通用するのかと不安でもあり、楽しみでもありました。結果はボロボロでした。話すスピードや発音には、生活していくうちに少しずつ慣れ、相手が私に伝えようとしていることを聴き取り、理解することは、わずかながらできるようになりました。しかし、自分の思っていることを言葉にして伝えるのはとても難しく、頭の中で文法を考え、文章にすることはできませんでした。だから、最初は自分から話すことができず、ホストファミリーからの質問に答えることで精一杯でした。けれど、私の言葉に耳を傾け、理解しようとしてくれていたので、なんとか単語をつなげ、身振り手振りを使い、伝える努力をしました。そして、だんだんと打ち解けることができるようになりました。大

切なのは、言葉だけではなく、心を開き、色々な方法で自分の気持ちを伝えることだと学びました。

この派遣事業を通し、広い世界に触れ、たくさんの気づき、学びがありました。また、派遣団の仲間、ホストファミリー、関係してくださった方々との新しい出会いがありました。その全てに感謝したいと思います。

ありがとうございました。